

ひたちの文化

2 エッセイ⑩ 末丸 アキさん

- 3 日立市文化少年団ご紹介④
- 3 日々を詠む⑩③ 選・評 三浦 武也さん
- 4 My 仕事⑩② CANVAS合同会社 佐々木しづかさん



ふるさと探訪パートⅡ⑧④

- (新連載)デザインとの出会い 後藤 弘文さん 6
- 常陸国まつり歩き③ 長江 慶治さん 7
- ひたちの文化250号のあゆみ 8



「睡蓮」

撮影：小野瀬 清三さん（金沢町在住）

撮影場所：国民宿舎鶴の岬

眼前に広がる、一面に花を咲かせる睡蓮。今を盛りと咲く花に道行く人々が見とれ、歩みを止める。極楽浄土を連想させるその光景の前では、穏やかなひと時が流れている。

泥の中で懸命に根を張り茎を伸ばし、水面で花を咲かせる睡蓮。濁った泥水の中にありながらよくも可憐な花を咲かせるものだと妙に感心してしまふ。睡蓮は何も語らない。己の境遇に不平不満の声をあげることもなく、ただひたすらに根を張り、可憐な花を咲かせることでその存在を主張している。

さながら泥水に嵌^はまってもがき苦しむように、人の一生においても悲しい出来事や厳しい現実に向直し、進むべき方向を見失うこともあるだろう。だがそこで一切を諦め、人生のレールを自分から降りてしまふようなことがあってはいけない。どのような境遇であれ、しぶとく粘り強く生き抜いた者だけが、人生を全うしたと言えるのではないだろうか。

泥の中でみっともなく足掻き続けていれば、いつの日か大輪の花を咲かせる日が訪れるかもしれない。

睡蓮は何も語らない。照りつける日差しの中、ただ静かに可憐な花を咲かせるのみである。

エッセイ

110

ブログでつづる 日立での日々の暮らし

末丸 アキ



末丸 アキ(すえまる あき)

イラストレーター・ブロガー
日立市在住
日立出身の妻との平凡でのんびりした二人暮らしの様子を、ブログやインスタグラムなどで綴っています。書籍『ヨメが勝手にアラームを止めちゃうんです。』発売中。

現在、ライブドアブログやインスタグラムでの日常イラストの執筆をメインに活動しています。

子どもの頃に絵を描くことは好きでしたが、専門的な事を勉強したことはありません。イラストは独学です。

十一年以上前、某ブログに落書きの様なイラストを投稿したのが最初です。その後、ユニークな妻との生活の様子を絵日記漫画としてブログ掲載しています。

当時の人気コンテツは「子育て」や「ペット」などでした。そのような中で我々のような子どものない夫婦の話なんてニーズがあるのか?と思いはがらも、普段の生活



等身大の夫婦生活を日々つづっています

ない場所での生活をスタートさせました。多少の不安はありましたが、ちょっとした出会いから人の輪が広がり、様々な方と知り合うことができて、今では第二の故郷と感じるほどに居心地の良さを感じています。

の中でクソツと笑えたエピソードなどをコツコツ描き続け、気付いたら大変ありがたいうちにたくさんの方に応援して頂き、2015年に宝島社から書籍を出版することができました。



便利さと慌ただしさが混在する都会とは違う、日立ののんびりした空気感や温かい人柄は私たち夫婦に合っていたのだと思います。
ある日、日課の朝のウォーキングの様子を写真を交えてブログに掲載すると、それを見たフォロワーさんから「日立駅懐かしい!」「久々に日立行きたい!」というコメントを頂きました。海や山、春の桜や緑いっぱい街並みは、皆さんの心に刻まれているのだと感激しました。

そして、元々が超がつく程のインドア派だった私たち夫婦ですが、3年程前からキャンプを始めました。ちょうどコロナ禍。キャンプが注目され始めた頃で、当初はハードルが高いと思いついていたアウトドアレジャーですが、公園でボーツと過ごす事の延長のようにのんびりするチル(Chill) キャンプというキャンプスタイルがあるのを



知って、夫婦でアウトドアにチャレンジしました。今では月に1~2回程キャンプに行っています。それまで夫婦の共通の趣味というものがなかったのですが、それからは二人で揃ってキャンプに出掛ける様子を漫画にすることも多くなりました。妻は「人生で初めてへ趣味」と言えるものができた」と喜んでいきます。

とある記事で『キャンプ場が一番多い県』と紹介された茨城県。改めて調べると、たしかにたくさんキャンプ場があるんです。自然に囲まれた茨城県らしく、キャンプ場の特徴も様々。次は、海か山か。『今度のはあのキャンプ場にいったらみよう!』と夫婦で計画を立てるのも最近の楽しみの一つです。
そして、美味しい物がたくさんある日立!大みか饅頭やはせがわのドーナツ!素朴だけど、東京に

いたら食べられない物が日立にはたくさんあります。日立に移住してから太りました(笑)。
昔から当たり前の様にありけれど、私のような県外出身の人からは新鮮に見えるものに溢れているのは日立の魅力の一つだと感じています。
まだ行ったことのない美味しいお店や素敵な風景、様々な人との出会いも楽しみたいです♪

最後に、今後も私たち夫婦の『なんてことない毎日』という等身大のライフスタイルを日常漫画として発信していきます。もちろん日立の魅力も伝えられるよう微力ながら貢献できればと思っています。



書籍も好評発売中です



ブログ・インスタへのアクセスはこちら

ひたちジュニア弦楽合奏団は、市内の音楽を愛する方々の思いと願いを込めて、平成4年8月、日立シビックセンターに誕生しました。小学2年生から高校3年生の団員が、毎週土曜日の定期練習や合宿練習、演奏会などをとおして学校や学年をこえた多くの仲間と交流し、活動しています。子どもたちが習う楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの3種類です。練習では楽器ごとにプロの先生が教えてくれるパート練習と、指揮の先生に合わせて、全員で演奏する合奏に

ひたちジュニア弦楽合奏団

さまざまな文化に触れよう! 日立市文化少年団ご紹介 4

日立市文化少年団をご存じでしょうか?日立市では現在25の文化少年団がさまざまな分野で文化活動に取り組んでいます。どの団体も幼少期から多様な文化に触れ、日本の伝統文化や新しい生活文化を学ばせることを目的としています。また、次世代への文化の継承という意味でも文化少年団は大切な役割を担っています。毎号2団体ずつ、本誌面で紹介してまいります。

ひたちジュニア弦楽合奏団の案内

- (1) 活動日時: 毎週土曜日14時から17時まで
- (2) 活動場所: 日立シビックセンター音楽室
- (3) 入団条件: 小学2年生から高校3年生まで
- (4) 会費: 6,000円/月
- (5) 申込み/問合せ先: ひたちジュニア弦楽合奏団事務局
〒317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 日立シビックセンター内
TEL: 0294-24-7755 FAX: 0294-24-7979 E-mail: hall@civic.jp



取り組みます。演奏会は毎年春と秋の2回行っています。いろいろな学校年齢のお友達と一緒に楽しく演奏してみませんか?



日本宇宙少年団 日立シビックセンター分団

皆さんこんにちは!私たちは日本宇宙少年団日立シビックセンター分団です。

「日本宇宙少年団」とは、次世代を切り開く「宇宙時代の地球人」を目指して様々な活動を行っている団体で、私たちは日本全国にある分団のひとつとして、主に日立シビックセンター科学館を中心に活動しています。

現在は56名の団員が在籍しており、宇宙や科学について楽しく学び、知識を深めています。活動では主に、天体観測やプログラミング活動、実験・工作などを行っています。

星や宇宙、科学が好きな仲間と一緒に楽しく活動してみませんか?皆さんの入団をお待ちしております。

日本宇宙少年団日立シビックセンター分団の案内

- (1) 活動日時: 月1回程度
- (2) 活動場所: 主に日立シビックセンター科学館
- (3) 入団条件: 小学3年生から中学3年生まで
※高校3年生まで継続して在籍することが可能です。
- (4) 会費: 年間8,800円(本部年会費、分団年会費、本部登録料、保険料)
※その他、活動によって参加料を徴収します。
- (5) 申込み: 募集は毎年2月頃行います。応募多数の場合は抽選です。
- (6) 問合せ先: 日本宇宙少年団日立シビックセンター分団事務局
〒317-0073 日立市幸町1-21-1 日立シビックセンター内
TEL: 0294-24-7731 FAX: 0294-24-7975
E-mail: kagaku@civic.jp



103 日々を詠む

《選・評 三浦 武也》

マスク取り貴方の笑顔見せどころ

戸谷 茂雄

影響の大きかったコロナ禍も、終息とは言えないまでも五類に分類され、遠ざかったような気になる。長かったマスクも付ける付けられない個人の自由となった。そんな折美しい顔を見せたくれと願望する一句となりました。

日立川柳連盟会員

My 仕事

一人じゃない、一人になれる

CANVAS合同会社

副代表

佐々木 しづかさん
(大みか町)

JR常磐線大甕駅の東口から徒歩一分という好立地にある「マイクロクリエイションオフィス ミカケル」。昨年四月にオープンしたこの施設を切り盛りするのは、運営会社副代表の佐々木しづかさん。大みかの「ミカ」にさまざまな物・人を「掛ける(カケル)」ことで新しいものを生み出す施設。今回は佐々木さんにお時間を割いていただき、貴重なお話を伺うことができた。

元々は日立市からの依頼で、日立市への移住とテレワークの促進、この二つの課題の解決にあたることになりました。私たち自身も子どもを持つ親なのですが、親の視点に立った時に子育て支援を真ん中に置くことで二つの課題解決につながればと考えました。私たちCANVAS合同会社はシェアリングエコノミーという事業を行っており、シェアオフィスを通して「誰かのチャレンジを応援



佐々木さん(左)と子育てサロンを運営している佐藤千織さん(右)

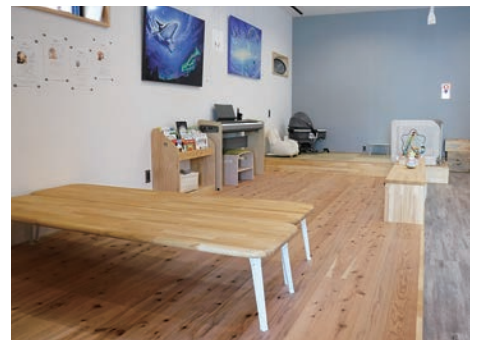
する」ことを軸に置いていきます。そこに連動するように子育て支援を進めていきたいと考えています。主に女性の起業支援と、女性が起業を始めた時に家事や育児との両立を支援するという二つを掲げてミカケルを立ち上げました。子育て支援・女性の起業支援という旗を掲げながら昨年一年間ミカケルを続けてきて、そのコンセプトに共感してもらえて自分もなにかやってみたいというママさんが徐々に集まってくれま



スタイリッシュな外観

また、この場所ではママさん同士が意気投合して、自然発生的にサークルやコミュニティが立ち上がっていきばいいなと考えています。子育てをしているママさんは

した。そこで「子育てサロン」というわかりやすい形で場所を提供したいと考え、今年の四月に一階の一部をサロンに改修しました。平日の昼間、さまざまなテーマを設けてママさんたちを受け入れており、彼女らが自分らしく生きるためのきっかけをサロンで見つけてくれればと考えています。イベントに参加しているママさんたちの話を聞くと、他所でやっている子育てサロンでは育児の話はできてもママさん自身が将来叶えたい夢や目標を語り合うことのできる場所がとて少なく、そうした場所が求められているんだなと実感しました。



畳スペースもある子育てサロン



ママさんたちの喋り場も完備

茨城キリスト教大学がすぐ近くにあるという立地を生かして学生とコラボをすることもあります。幼児保育専攻と食物健康科学科の方と一緒に離乳食のイベントを開いたり、またJR東日本が手掛ける茨城デスティネーションキャンペーンの一環で学生と共に地域の特産物を前面に出した料理を開発し、大甕駅前でのonniwaというスペースで販売するといった取り組み

社会との接点が減って孤独に陥りがちです。また、生活の全てが子どもを中心に動くようになり、自分のことはつい後回しになってしまいがちです。ですので、「一人じゃない子育て」ができて、なおかつ「安心して一人になれる」、つまりほっと一息できる自分だけの時間が取れるような、そんな二つのつながり作りを支援しています。

お楽しみを盛り上げてくれるママさんをお待ちしています！

今年十月に「ママの文化祭」というイベントを企画しています。普段は子どもやパパを優先して脇役に回ることの多いママさんたちが自分たちを表現する場としてこの日一日は主役となるイベントを開催しようと考えています。幅広い関わり方ができるようにと考え、「文化祭」と名付けました。出店者や参加者としてや、応援団として作る過程も含めて楽しんでもらえるイベントにしたいと考えています。また、ママの力ファエを出そうという案が出て、メニュー作りから取り組んでいたり、大甕駅前にあるonniwaで音楽やダンスなどステージに立って演奏や表現をしてみたいママの企画も進行中です。一緒に文化祭を盛り上げてくれるママさんをお待ちしています！



おしゃれなシェアキッチン

ふるさと探訪パートII- 84

太古の泉探訪

海老沢 貴志 (株式会社みろっく)



日立市水木町に泉神社がある。神社の御神体は言わずと知れた太古の時代から枯れることなく湧き続ける泉である。透明でクリアな水がゴンゴンと湧き出している。

泉の上には裏山整備で発見された泉龍木が祀られている。

御田緒『泉神社HPより引用』
泉神社は、人皇第十代崇神天皇の御代、宇治四九年(紀元前



泉龍木

四二年)にこの地方に鎮祀されたと伝えられている。延喜式内社の由緒深い旧郷社である。久自國造船瀬宿禰の奏請により、大臣伊香色雄命が勅命を受けて久自の国に至り、天速玉姫命を祭祀して久自の国の総鎮守としたことが泉神社の創立である。

社記に「上古靈玉此地に天降り靈水湧騰して、泉をなす号けて泉川云ひ靈玉を以て神体とする」とある。「祭神はこの靈玉を神格化した天速玉姫命をお祀りしている。」(引用ここまで)

この神社の歴史はなんと紀元前四二年から伝わっていた。由緒のある神社である。常陸國風土記では『密筑の大

井』と記され古くは密筑の里と呼ばれていた。現在は、この泉の下流側にイトヨの里がある。この公園では水場環境を観察できる小川が整備されている。整備される遙か前には自然豊かな小川と水木浜まで繋がる田園風景があったと地元の方から子ども頃のお話を聞いた。

同じ日にイトヨの里を守る会の方たちとお会いし貴重なお話も聞いた。この数年で泉から湧き出る水の量が減少してきた。さらに昔は大量にいたイトヨは震災あたりから少なくなり今は一匹もいなくなつたと聞いた。

このタイミングで地下湧水に詳しい海洋学者の新井章吾先生



地下湧水調査

をお連れしていた。なぜ湧水が減っているのか?周辺を調査し見立てをお聞きした。

地下水は、短時間から長い年月をかけて川、湖沼、海の底から湧き出る。しかし、荒廃した森およびコンクリート構造物が多くなり土中の土が固まるグライト土壌が拡大して地下にしみ込む雨水が減少したことで、湧水の湧出量が減少してきたと考えられる。その視点で周辺を観察するとイトヨの里の中にもグライト化が進んだ灰色の土壌を見つけたことができた。

新井先生の見立てから推測されたイトヨ絶滅の原因は、グライトの進行に伴う貧酸素と硫化水素の発生による水質環境の悪化である。

グライト化現象を軽減するために、各地で実証実験が行われている方法が雨庭である。大地に水を浸透しやすくする雨庭には、も一つ一つの利点がある。それは近年増加している河川氾濫を防ぐ家庭でできる水害対策である。

雨庭以外にも、杉並区では子どもたちのアイデアをきっかけに生まれたグリーンインフラも

ある。善福寺川上流の都立善福寺公園にある遅野井川親水施設である。かつての公園内の水路は護岸に囲まれ草が生い茂り近づくとこのできない水路だった。そこで地域の小学生が公園内の水路を親しみやすい水辺にしてほしいと区長に呼びかけ区の事業として水路の改修工事が行われることになった。

日立には数千年枯れない泉があり大切に守っている人たちがいた。この泉をこれからも多様な視点で共に考え守り、いつの日かイトヨの生態が戻る環境を創るのも私たちの責任なのかもしれない。歴史と自然環境を観察しながら近隣を散策する楽しみが日立にはある。



泉神社の御神体

新連載

デザインとの出会い

— 後藤 弘文 —

① 50のデザイン

元日立市立豊浦小学校校長。市内の小中学校で美術科を教える傍ら、自らもアーティストとして作品制作に取り組む。茨城県近代美術館を始め展覧会等文化行政に従事。日立市美術展覧会を始め多数の展覧会に出展。

昭和14年(1939)9月1日、日立町と助川町が合併して誕生した新生「日立市」は、平成元年(1989)に市制50周年を迎えました。

昭和20年(1945)の終戦間際、軍需工場があったためにアメリカ軍の度重なる猛攻撃により、街が壊滅し多くの犠牲を生んだ惨劇の歴史を忘れることができません。

昭和から平成に元号が変わる頃、私は平沢中学校で美術を専科とする教員として教鞭をとっていました。

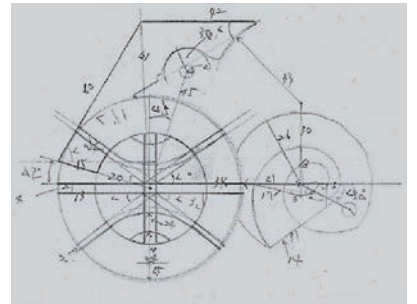
市の50周年記念シンボルマークの公募があり、授業でマークの目的や制作方法を伝え、生徒と共に応募したことを覚えていきます。

審査の結果、応募作品250

点から、生徒作品と共に入選し、さらには私の作品が最優秀作品に選考されました。市制50周年記念を後押しするデザイン



あなたはどちらを選ぶ？



マークとして、さまざまな展示物や配布物に活用され、一つのマークが何千、何万の数で利用された体験は初めてです。

制作にあたっては、記念の「50」を素材に、地球と鳩と波を盛り込みました。

地球には、深まる国際化と共に、世界の一大都市として益々発展する願いを、また、鳩には戦争の惨劇を体験した日立市民の平和に対する強い願いを託しました。さらに、波には日立の海

ひいては恵まれた自然を青と緑の色で象徴化し、未来への遺産として大切にしていきたいという強い願いを込めてデザインを練り上げました。

「50」の形状の円内に、地球と波を当てはめることで、国際化と自然遺産の目的は達成できます。残された目的である平和を鳩としてここに、どのように

構成するか悩んだ結果、5の上部に鳩の一部を入れ込むことにしました。くちばしと目だけで鳩の特徴が出ていれば、見る人のイメージは広がります。

心理学に登場する「ルビンの壺」の考え方を取り入れ応用したわけです。これは、1915年頃にデンマークの心理学者エドガー・ルビンが考案した多義図形で、白い部分に注目すると、中央に壺(壺)が浮かび上がり、逆に青い部分に注目すると、左右から向かい合う二人の横顔が



あなたにはどう見える？
「ルビンの壺」

浮かび上がります。白い地色だけを見つめると、不思議に鳩が浮き出るだまし絵としてのからくりです。だまし絵の天才は、オランダの作家、マウリッツ・エッシャー(1898-1972)で、また「日本のエッシャー」とも称される福田繁雄(1932-2009)であり、遊び心が詰まったデザイナーといえます。

この二人は、摩訶不思議さを備えた私の大好きな作家でもあります。

あれから34年が経過し、21世紀の世界となりました。益々核の脅威が現実となり、この地球上から戦争は、いつ消えるのでしょうか。

市制百周年を祝福する時は、平和な地球であってほしいと願うばかりです。

世良公則
アコースティックソロライブ2023
迸る (hotobashiru)
～生きる力が此处にある～

日時 9月2日(土) 午後4時開演
会場 日立市民会館ホール
料金 全席指定 7,000円 (当日7,500円)

問合せ 日立市民会館0294-22-6481

ひたち街角小劇場第59弾
劇団コミュニオン第30回公演
蠅取り紙 ～山田家の5人兄妹～

日時 9月23日(土・祝) 午後5時30分開演
24日(日) 午後2時開演
会場 多賀市民会館ホール
料金 全席自由 一般1,300円 (当日1,500円)
中高校生500円
小学生以下無料

問合せ 多賀市民会館 0294-34-1727



ひとがた

水戸市にある水戸八幡宮で令和三年六月三十日に行われた「夏越の大祓式」に参列した。

一年の半分が過ぎるこの日に、半年の間に知らずくりに身についた穢れを祓い、無病息災を願う行事だ。後の半年分が心配な方もいると思うが、ちゃんと年末に「年越しの大祓式」が用意されているので、ご心配無用。

八幡宮に到着して最初に、紙の「人形」に自分の名前や住所を書いて息を吹きかけて、わが身にたまった穢れをつつし、初穂料を添えて社務所に預けた。「人形」は、後で神様に穢れを

常陸国
まつり歩き

ながえ よしはる
長江 慶治

なごし おおはらえしき
③ 夏越の大祓式

茨城県内にはユニークな祭礼が数多存在する。
そうしたお祭りを多数渡り歩き、造詣の深い長江慶治氏にその中からいくつかを本誌面でご紹介いただく。



「人形」を納めた長櫃を担ぐ神官

落としていただき、那珂川の清水に流してもらおう。

隋神門の正面にある拝殿の前には、大きな茅の輪と祭壇が設けられていて、ここで「夏越の大祓式」が行われる。

最初に「大神楽」が奉納されたが、その「神楽」は「獅子舞」と「曲芸」だった。私は、「神楽」は「古事記」などに書かれている神話を演じる舞だと思っていたが、この「獅子舞」は厄払いや土地を清める役割、皿回しなどの「曲芸」は福を呼ぶ役割があるれっきとした「神楽」の神事だそう。

その後、いよいよ神官の祝詞に続き、茅の輪くぐりが始まる。まず神官が、「人形」を納めた長櫃を担いで茅の輪をくぐり、参拝者たちがそれに続く。

茅の輪くぐりは、初めに左回

り、次に右回り、もつ一度左回り、最後にまっすぐ茅の輪をくぐって拝殿に向かい、ここで神様に参拝して終了。この時、左回りの時は左足から、右回りの時は右足から茅の輪をくぐるのが作法だそう。

「備後風土記」の逸文に素戔嗚尊と蘇民将来について、次のような話が載っている。

ある時、武塔神が旅の途中で二人の兄弟に一晚の宿を借りようとしたが、裕福な弟の巨旦将来は断り、貧しい兄の蘇民将来は快くもてなしてくれた。その後、武塔神は蘇民将来に恩返しをするため、再び蘇民将来を訪れ、「お前の子孫はいるか」と聞いた。蘇民が「娘が一人いる」

とここで、茅の輪くぐりの由来は、境内にいづくも掲げられている幟の文「蘇民将来子孫也」に示されている。

「備後風土記」の逸文に素戔嗚尊と蘇民将来について、次のような話が載っている。

ある時、武塔神が旅の途中で二人の兄弟に一晚の宿を借りようとしたが、裕福な弟の巨旦将来は断り、貧しい兄の蘇民将来は快くもてなしてくれた。その後、武塔神は蘇民将来に恩返しをするため、再び蘇民将来を訪れ、「お前の子孫はいるか」と聞いた。蘇民が「娘が一人いる」



茅の輪くぐり

と答えた所、「では、娘に茅の輪を腰の上につけさせよ」といわれたので、その通りにしたらその夜の内に茅の輪をつけた蘇民の娘以外の者は、皆滅ぼされてしまった。武塔神に善行を施した蘇民将来は妻と娘とともに無事だったのである。その後、武塔神は「実は私は素戔嗚尊だ。もし、後の世に疫病が流行ったら、私は蘇民将来の子孫だといって茅の輪を腰の上に着けた人は疫病から免れる」といった。この神話をもとに無病息災を祈るとき、「我は蘇民将来の子孫なり」といって茅の輪をくぐるようになったという。



拝殿前の茅の輪と祭壇

こうして、参拝者は「人形」につつまれた穢れを祓ってもらい、さらに茅の輪をくぐって無病息災を祈って「夏越の大祓」が終わった。

こうして、参拝者は「人形」につつまれた穢れを祓ってもらい、さらに茅の輪をくぐって無病息災を祈って「夏越の大祓」が終わった。

日立市芸術祭 第59回日立市美術展覧会

日時 9月9日(土)～9月17日(日)
午前10時～午後5時
(最終日は午後3時まで)

会場 日立シビックセンター・マープルホール
入場無料

問合せ 日立市文化協会事務局
0294-24-7711

令和5年度日立市芸術祭
2023 Hitachi City 市展ART EXHIBITION

写真 021-003
日本画・絵画 02 美術ホール
工芸・デザイン 02 オウイス
書道 02 オウイス
演劇 02 オウイス
ダンス・パフォーマンス 02 オウイス
音楽・楽器演奏 02 オウイス

おとのおプラスフェスタ in 日立
～吹奏楽コンサート&ワークショップ～

日時 9月30日(土)
第1部 午後2時30分開演
第2部 午後3時15分開演

会場 日立シビックセンター音楽ホール

料金 全席自由 一般1,000円
高校生以下500円

問合せ 日立シビックセンター
0294-24-7720

茨城
おとのお
プロジェクト

ひたちの文化 250号のあゆみ

ひたちの文化は今号で250回目の発刊を迎えました。これも偏に読者の皆様が支えてくださるお陰です。いくつかの号を抜粋し、小紙がこれまで歩んできた道のりを紹介します。



▶ 創刊号(昭和51年9月8日発行)

工業都市として急速に発展を遂げていた日立市ですが、当時はその経済的成長に比べ文化的な成熟が追いついていませんでした。文化向上を熱望する市民を中心に「事業団ニュース」と題し創刊されました。当初は市民の手による文化事業団を立ち上げることが目的で、手書きによるガリ版印刷でした。



▶ 第4号(昭和52年10月20日発行)

冊子名を「ひたちの文化」に変え、この頃に広報誌「ひたちの文化」としておおよその骨格が整いました。各界で活躍する著名人から寄稿してもらったスタイルが始まったのもこの頃からです。



▶ 第19号(昭和56年5月1日発行)

(財)日立市民文化事業団の三代目理事長を務めた茨城大学名誉教授の故・瀬谷義彦氏の執筆による「ひたち史余話」の連載がスタートしました。連載は第55号まで続く長期シリーズとなり、書籍化も果たしました。



▶ 第112号(平成27年7月1日発行)

誌面サイズをA4判に拡大。またカラーの表紙が定着し、より読みやすい形になりました。

● 第224号(平成27年4月1日発行)

(公財)日立市民文化事業団と(公財)日立市科学情報財団が合併し、(公財)日立市民科学文化財団として新たにスタートしました。日立市に新たな文化の風が吹き込んできた瞬間です。

そして、

記事内容や構成に改良を加えながら、より市民に親しまれるひたちの文化をこれからも目指していきます。

ひたちの文化のバックナンバー

財団HPにて好評掲載中!



(<http://www.civic.jp/hitachi/magazine>)

編集後記

■ひたちの文化のバックナンバーを読み返していて、とある方の名前が目にとまった◆Kさんという方で、三十数年前、彼女は編集委員として誌面をまとめ、またミニコラムを執筆していたようである■Kさんは、今の連れ合いを私に紹介してくれた、言わば仲人に近い方である。出会った当時すでに高齢だったが、年齢を感じさせない行動力を持ち芯の強さを感じさせる女性だった◆ひたちの文化の編集に関わっていたことを生前の彼女の口から聞けることはなかった。もし知っていたら当時の編集作業にまつわる話を尋ねることができたのにと悔やまれる■彼岸でKさんが読んでいるかもしれないと思うと、いい加減な仕事はできないかと改めて身が引き締まる思いであった。

(A)

表紙の写真



スイレンとハスは生物学上の分類が異なる。スイレンは水面に浮かぶように花を咲かせるのに対し、ハスの花は茎を水面から真上に伸ばした上に咲く。またスイレンの葉には光沢があるがハスのそれには無いので、花をつけない季節には葉を見て判別するとよい。

写真は金沢町にお住まいの小野瀬清三さんによる撮影。ふるさと日立カレンダー応募作品よりお借りしました。

発行 公益財団法人日立市民科学文化財団
「ひたちの文化」編集委員会

〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内
TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633
HPアドレス <http://www.civic.jp>

※ご意見・ご感想をお寄せください。

